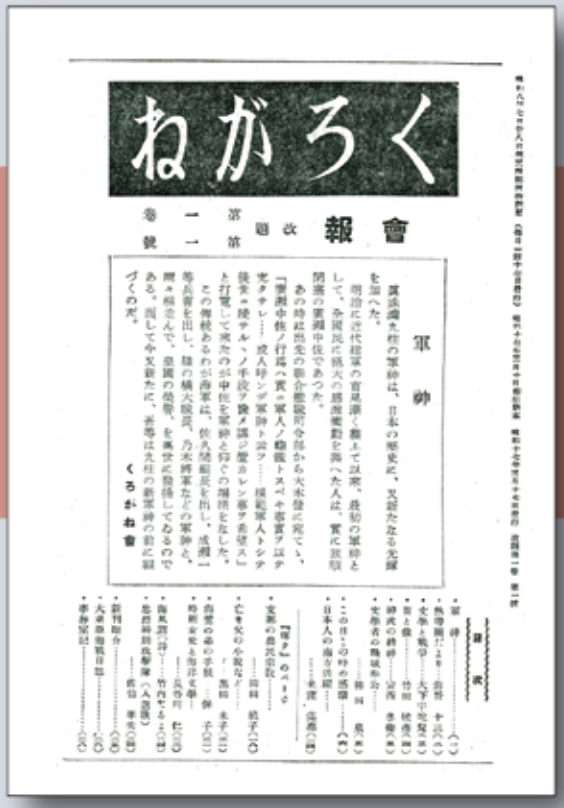
＊現代社会・文化史資料　11＊

海軍外郭団体雑誌『くろがね』

海軍兵士への慰問品として娯楽読物を必要としていた海軍、
「自由」に原稿を執筆できる場を切実に求めていた探偵小説作家、
思惑が一致したところに生れた稀有な言論文藝雑誌。



編・解題―石川 巧（立教大学文学部教授）
―A5
―揃価 96,930 円

【第二回配本】　配本揃価 61,540 円 ISBN978-4-909680-13-6

『くろがね会報』1巻1号～2巻1号（くろがね会、1941年10月～1942年2月）
『くろがね』1巻1号～10号（同、1942年3～43年1月）

【第一回配本】　配本揃価 35,390 円 ISBN978-4-909680-14-3

『くろがね』2巻1号～12号（同、1943年2～12月）
＊解題・総目次・索引

戦時期言論統制の下、作品発表のメディアを奪われた江戸川乱歩ら探偵小説作家たち。
「筆を折った」／別の小説分野に「転じた」とされてきた作家たちは、海軍省の外郭団体会報に作品を発表することで戦時中も執筆を続けていた。　出版メディア史研究において言及されてこなかった雑誌であり、収録作品の多くが新たに発見された新資料。
戦時下の雑誌メディア研究と探偵小説作家研究の両面において本書は重要。

Kanazawa Bumpokaku
金沢文圃閣
〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30　Tel 076-261-8884　Fax 233-3111
口詳細な内容見本のご用意あります。

Maruzen eBook Library